

フェニックスリーダー育成プログラム
博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination, QE）
実施要領
（４年制・５年制コース，平成 28 年度以降入学生用）

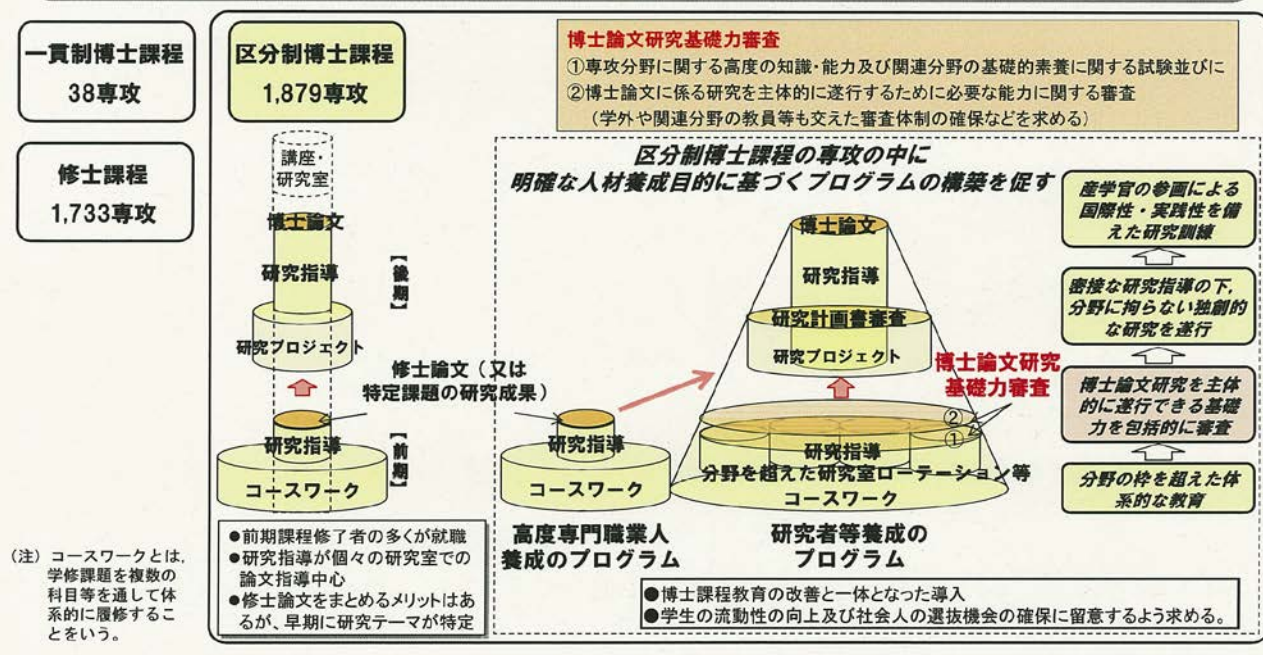
I	博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）とは	１
II	フェニックスリーダー育成プログラムにおける 博士論文研究基礎力審査	２
III	博士論文研究基礎力審査のスケジュール	３
IV	博士論文研究基礎力審査委員会の組織等	３
V	博士論文研究基礎力審査の審査方法	４
VI	博士論文研究基礎力審査申請書	７
VII	博士論文研究基礎力審査結果報告書	８
VIII	博士論文研究基礎力審査合否判定通知書／依頼書	14
IX	参考資料（関連規程）	
1	フェニックスリーダー育成プログラム履修細則（関連条項のみ抜粋）	16
2	博士論文研究基礎力審査実施要項	16
3	博士論文研究基礎力審査における不合格及び再審査の取扱い	18
4	博士論文研究基礎力審査委員会における学外委員の取扱い	19

平成 30 年 3 月 5 日
フェニックスリーダー育成プログラム会議
フェニックスリーダー育成プログラム教育委員会

I 博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination) とは

「博士論文研究基礎力審査」の導入について

- 博士課程の殆どは前期・後期に区分する課程であり、その前期課程は修士課程として扱われ、修士論文（又は特定課題研究）の審査及び試験が、前期の課程を修了し修士号を授与する要件となっている
- 一貫したプログラムを持った体系的な博士課程教育を構築し、博士課程教育の質を高める観点から、当該プログラムの前期の課程を修了し修士号を授与する要件として、大学の判断により、修士論文（又は特定課題研究）の代わりに、「**博士論文研究基礎力審査**」の導入を可能にする



引用：文部科学省 HP

前期及び後期の課程に区分する博士課程における前期の課程の修了要件について、当該博士課程の目的を達成するために必要と認められる場合には、①専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養についての試験、②博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力についての審査（以下①及び②の試験及び審査を「博士論文研究基礎力審査」という。）の合格を、修士論文又は特定課題の研究成果の審査と試験の合格に代えることができる。

これにより、博士課程の前期及び後期の課程を通じて一貫した人材養成上の目的を有する履修上の区分(コース、プログラム等)においては、学則に定めることにより、授業科目の履修による単位の修得に加え、

- (1) 専攻分野とその関連分野の専門的知識・能力を評価するための筆記等による試験
- (2) 博士論文研究を行う分野に係る研究の背景や意義、展望に関する認識や、課題を設定し研究を推進する能力等を評価するための研究報告の提出及び口頭試問等による審査

による博士論文研究基礎力審査の合格を、修士論文又は特定課題の研究成果の審査と試験の合格に代えて、修了要件とすることができる。

引用：大学院設置基準等の一部を改正する省令の施行について（通知）

平成24年3月14日 23文科高第1112号

Ⅱ フェニックスリーダー育成プログラムにおける博士論文研究基礎力審査

1 審査の方法（博士論文研究基礎力審査実施要項 第2より）

種類	審査方法		審査者	頁
コースワーク※3 (細則第10条第1号関係) 複数分野の専門知識に関する筆記試験	コースワーク※3 において学生が習得した知識及び能力を問う筆記試験		○博士論文研究基礎力審査委員会※1(ただし、産学官連携先担当者※2を除く。) ○授業担当教員	4ページ
	学生プロジェクト立案スキルの審査		○博士論文研究基礎力審査委員会※1 ○ヒロシマ・フェニックストレーニングセンター運営委員会(出題のみ)	
リサーチワーク※4 (細則第10条第2号関係) 博士論文研究基礎力審査委員会※1による研究計画書に対する英語での口頭試問	学生の特別課題研究(特別研究)等の報告書又は博士論文研究計画の審査		○博士論文研究基礎力審査委員会※1	5ページ
e ラーニングポートフォリオ※7 (細則第10条第3号関係) 博士論文研究基礎力審査委員会※1による学修の記録(単位修得状況とその理解度及び目標達成度)に基づくプログラムが目指す博士候補生としての資質能力審査	e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた学修目標※5 に対する到達度自己評価※8 の確認		○博士論文研究基礎力審査委員会※1	6ページ
	到達度のエビデンス※9 に基づく成果水準※6 の確認	学生の単位修得状況の確認	○博士論文研究基礎力審査委員会※1	
		e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた国際シンポジウム終了後に学生が提出する国際シンポジウム報告書に基づく成果水準※6 の確認	○博士論文研究基礎力審査委員会※1	
		e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた短期フィールドワーク終了後に学生が提出する報告書に基づく成果水準※6 の確認	○博士論文研究基礎力審査委員会※1	
		e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた共通コースワーク終了後に学生が提出する報告書に基づく成果水準※6 の確認	○博士論文研究基礎力審査委員会※1	
		e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた短期インターンシップ終了後に学生が提出する報告書に基づく成果水準※6 の確認(平成27年度以前入学生に限る。)	○博士論文研究基礎力審査委員会※1	

(注)

- ※1 博士論文研究基礎力審査委員会 主任指導教員1人、副指導教員3人及び産学官連携先担当者(※2)で構成する委員会。プログラム責任者が必要と認めた本学専任の教員を含むことができる。
- ※2 産学官連携先担当者 インターンシップ等により任用した客員教授等
- ※3 コースワーク 学修目標に沿った複数科目の体系的な履修
- ※4 リサーチワーク 主任指導教員及び副指導教員の指導の下で学生が実施する個別の研究活動
- ※5 学修目標 プログラムのみならず将来のキャリアの中でも目指す目標であり、フェニックスリーダーとして身につけるべき知識や能力を示したもの。
- ※6 成果水準 到達度の基準となる学修成果を段階的に示したもの。
- ※7 e ラーニングポートフォリオ フェニックスリーダー育成プログラムの学修の記録
- ※8 到達度自己評価 e ラーニングポートフォリオにおいて学生が実施し、記録する学期ごとの学修目標に対する到達度の5段階評価
- ※9 到達度のエビデンス 学生による学修目標に対する到達度の根拠として学生が添付する報告書等の学修成果物

2 受験資格（フェニックスリーダー育成プログラム履修細則 第11条より）

(1) 4年制コース

- ① 所属研究科の2年次前期終了時における所定の単位を修得(見込みを含む。)していること。
- ② 4年制コースの2年次前期終了時に当該コースの単位を16単位以上修得(見込みを含む。)していること。

(2) 5年制コース

- ① 所属研究科の博士課程前期における所定の単位を修得(見込みを含む。)し、博士課程前期を修了見込みであること。
- ② 5年制コースの2年次終了時に当該コースの単位を21単位以上修得(見込みを含む。)していること。

Ⅲ 博士論文研究基礎力審査のスケジュール

1 全体の流れ

通常の実施時期 () 内は4年制コース	内 容	備 考
プログラム履修開始～ QE受験まで	所属研究科及びプログラムの単位を修得	上述の「Ⅱ フェニックスリーダー育成プログラムにおける博士論文研究基礎力審査」 －「2 受験資格」を参照
4セメの4月 (3セメの10月)	「博士論文研究基礎力審査申請書」の提出	
4セメの6～7月 (3セメの12～1月)	博士論文研究基礎力審査の実施	博士論文研究基礎力審査委員会
4セメの8月 (3セメの2月)	合格者判定	教育委員会 → プログラム会議 → リーディングプログラム機構運営会議
	判定結果の通知	LP機構長 → 所属研究科長
4セメの9月 (3セメの3月)	4年制コース：判定結果の報告（教授会） 5年制コース：最終判定の実施（教授会）	5年制コース：修士号を授与
5セメの10月以降 (4セメの4月以降)	合格者は引き続きプログラムを履修	5年制コース：博士課程後期に進学

2 詳細スケジュール

詳細なスケジュールについては、その都度定める。

Ⅳ 博士論文研究基礎力審査委員会の組織等

1 組織

- (1) 主任指導教員 1人
- (2) 副指導教員 3人
- (3) 産学官連携先担当者 1人
- (4) その他、プログラム責任者が必要と認めた本学専任の教員

2 審査事項

(1) コースワーク

複数分野の専門知識に関する筆記試験（専門科目、プログラム科目及びプロジェクト立案スキル審査、日本語又は英語で解答可）

(2) リサーチワーク

博士論文研究基礎力審査委員会による特別課題研究（特別研究）等報告書又は研究計画書に対する英語での口頭試問

(3) e ラーニングポートフォリオ

博士論文研究基礎力審査委員会による学修の記録（単位修得状況とその理解度及び目標達成度）に基づくプログラムが目指す博士候補生としての資質能力審査

3 委員長

委員長は主任指導教員をもって充てる。

V 博士論文研究基礎力審査の審査方法

各審査の詳細な実施計画については、その都度定める。

1 コースワークの審査

(1) 実施方法等

種類			実施方法等
複数分野の専門知識に関する筆記試験	コースワークにおいて学生が習得した知識及び能力を問う筆記試験	専門科目	博士論文研究基礎力審査委員会で定める。
		プログラム科目	
	学生のプロジェクト立案スキルの審査	プロジェクト立案スキルの審査	

(2) 審査基準

専門科目、プログラム科目及びプロジェクト立案スキルの審査の3科目で100点（専門科目、プログラム科目及びプロジェクト立案スキルの配点は、博士論文研究基礎力審査委員会の裁量に委ねる。）とし、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム成績評価のガイドライン（平成25年9月24日フェニックスリーダー育成プログラム会議承認）別表第1に準じて秀、優、良、可及び不可の5段階評価を行った上で、可以上を合格基準とする。

別表第1(第4, 第5関係)

点数	区分
90点～100点	秀
80点～89点	優
70点～79点	良
60点～69点	可
60点未満	不可

2 リサーチワークによる審査

(1) 実施方法等

種類		実施方法等
博士論文研究基礎力審査委員会による研究計画書に対する英語での口頭試問	学生の特別課題研究（特別研究）等の報告書又は博士論文研究計画の審査	口頭試問の実施方法等は、博士論文研究基礎力審査委員会で定める。

(2) 審査基準

広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム到達基準(rubric)に基づき、5段階評価を行い、平均点の小数点第2位以下を切り捨てた数値を次の表に当てはめ、以上を合格基準とする。

平均点	評価
4.6点～5点	秀
3.6点～4.5点	優
2.6点～3.5点	良
1.6点～2.5点	可
1.5点以下	不可

(3) 特別課題研究（特別研究）等の報告書又は博士論文研究計画の提出

特別課題研究（特別研究）等の報告書又は博士論文研究計画の提出は、原則として所属研究科の書式に従い作成するものとする。ただし、これによりがたい場合は、次の様式に準じて作成するものとする。

フェニックスリーダー育成プログラム博士課程研究計画書

(表)				(裏)	
所属研究科					
学生番号		氏 名		㊞	
主 任 指 導 教 員	㊞	副指 導 教 員			
研究題目					
研究計画 (A4版2枚程度で作成)					
1 緒言 (背景)					
2 目的					
3 方法					
業績		※学会、シンポジウム等における発表、投稿論文 (採用・不採用とも)			
主任指導教員					
助言欄					
副指導教員					
助言欄					
副指導教員					
助言欄					
副指導教員					
助言欄					

3 e ラーニングポートフォリオによる審査

(1) 実施方法等

種類		実施方法等
博士論文研究基礎力審査委員会による学修の記録(単位修得状況とその理解度及び目標達成度)に基づくプログラムが目指す博士候補生としての資質能力審査	e ラーニングポートフォリオを用いた学修目標に対する到達度自己評価の確認	○到達度自己評価の確認
	学生単位修得状況の確認	○単位修得状況の確認
	e ラーニングポートフォリオを用いた国際シンポジウム終了後に学生が提出する国際シンポジウム報告書に基づく成果水準の確認	○国際シンポジウム報告書に基づく成果水準の確認
	e ラーニングポートフォリオを用いた短期フィールドワーク終了後に学生が提出する報告書に基づく成果水準の確認	○短期フィールドワーク報告書に基づく成果水準の確認
	e ラーニングポートフォリオを用いた共通コースワーク終了後に学生が提出する報告書に基づく成果水準の確認	○共通コースワーク報告書に基づく成果水準の確認

(2) 審査基準

広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム到達基準(rubric)に基づき、以下の①及び②の確認の結果、プログラムが目指す博士候補生としての資質能力を5段階で判定し、小数点第2位以下を切り捨てた数値を次の表に当てはめ、可以上を合格基準とする。

平均点	評価
4.6点～5点	秀
3.6点～4.5点	優
2.6点～3.5点	良
1.6点～2.5点	可
1.5点以下	不可

① 到達度自己評価の確認

到達度自己評価の確認は、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム大学院生の到達度自己評価(平成25年9月24日フェニックスリーダー育成プログラム会議承認)に基づき行う。

② 成果水準の確認

ア 単位修得状況に基づく成果水準の確認は、所属研究科博士課程前期単位修得状況(4年制コースは、2年次前期終了時における単位修得状況)、フェニックスリーダー育成プログラム授業科目の単位修得状況及びその成績評価状況に基づき行う。

イ 各報告書に基づく成果水準の確認は、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム学修目標に対する到達度確認に関する取扱い(平成25年9月24日フェニックスリーダー育成プログラム会議承認)に基づき行う。

VI 博士論文研究基礎力審査申請書

平成●年度(前期／後期) 広島大学大学院 フェニックスリーダー育成プログラム

博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination) 申請書

20XX (Spring Semester / Fall Semester)

Hiroshima University Graduate School Phoenix Leader Education Program

Qualifying Examination Application

平成 年 月 日
(year) (month) (day)

フェニックスリーダー育成プログラム責任者 殿

To Phoenix Leader Education Program Director

コース名 Course Name :

学生番号 Student Number :

氏 名 Name :

印 Seal

電話番号 Phone Number :

フェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination) を申請します。

なお、博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination) を受けるための基準を次のように [満たしています ・ 満たす見込みです]。

I hereby apply for admission to Qualifying Examination of Phoenix Leader Education Program.

Prerequisites for taking this examination above [have been fulfilled/ will have been fulfilled] as follows:

記

所属研究科・専攻 Graduate school Major	研究科 Graduate school of				専攻 Major
所定の単位数 Required Credits	単位 credits	修得単位数 Earned Credits	単位 credits	修得見込み単位数 Prospective Credits	単位 credits
上記の単位数について確認しました。I have confirmed the credits above.					
研究科長 Dean of Graduate school			公印 official seal		

コース名 Course Name	コース Course				
所定の単位数 Required Credits	単位 credits	修得単位数 Earned Credits	単位 credits	修得見込み単位数 Prospective Credits	単位 credits
上記の単位数について確認しました。I have confirmed the credits above.					
フェニックスリーダー育成プログラム事務担当者 Phoenix program				印 Seal	

主任指導教員 Primary Academic Advisor

印 Seal

VII 博士論文研究基礎力審査 結果報告書

平成●年度 広島大学大学院放射線災害復興を推進する

フェニックスリーダー育成プログラム

博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination) 結果報告書

所属研究科		専攻名	
コース名		氏名	
審査概要	1 コースワーク 複数分野の専門知識に関する筆記試験の評価は、（秀，優，良，可，不可）であった。 2 リサーチワーク 博士論文研究基礎力審査委員会による研究計画書に対する英語での口頭試問の評価は、（秀，優，良，可，不可）であった。 3 eラーニングポートフォリオ 博士論文研究基礎力審査委員会による学修の記録（単位修得状況とその理解度及び目標達成度）に基づくプログラムが目指す博士候補生としての資質能力審査の評価は、（秀，優，良，可，不可）であった。 以上、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムが実施した博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）合格の基準を〔満たしている・満たしていない〕ことを報告します。		
	平成 年 月 日 審査委員会委員長 審査委員会委員 審査委員会委員 審査委員会委員 審査委員会委員 印 （〇〇〇〇研究科 〇〇）		

1 コースワーク

試験結果を記入する。

試験の種類		成績		
複数分野の専門知識に関する筆記試験	コースワークにおいて学生が習得した知識及び能力を問う筆記試験	専門科目	X/X 点	X/100 点
		プログラム科目	X/X 点	
	学生のプロジェクト立案スキルの審査		X/X 点	

2 リサーチワーク

各委員の評価に基づき審査委員長が得点を記入する。

博士論文研究基礎力審査委員会による研究計画書に対する英語での口頭試問						
審査項目		評価基準(数字%は目安です)				
		1 点	2 点	3 点	4 点	5 点
		20%未満	40%程度	60%程度	80%程度	100%
1	本プログラムの理念と目的に合致する研究の目標を示す事ができる	ほとんどできていない	一部できている	概ねできている	ほぼできている	できる
2	研究の目的や目標を達成するために、適切な研究方法を提示することができる	ほとんどできていない	一部できている	概ねできている	ほぼできている	できる
3	専門分野を超えた学修成果を研究に反映させることができる	ほとんどできていない	一部できている	概ねできている	ほぼできている	できる
4	学術上の正確な情報に基づき、論じることができる	ほとんどできていない	一部できている	概ねできている	ほぼできている	できる
5	外国語による討論において、他者の発言を理解し自ら発言できる	ほとんどできていない	一部できている	概ねできている	ほぼできている	できる
平均点 XX						

3 e ラーニングポートフォリオ

学生の自己評価に基づき審査委員長が総合点を記入する。

(1) 共通項目

学修目標 Learning Goals	コード Code	基礎到達目標 Learning Objectives	成果水準1 effort 1	成果水準2 effort 2	成果水準3 effort 3	成果水準4 effort 4	成果水準5 effort 5	自己 評価	総合
国際力 国際社会で リーダーシ ップを発揮 することが できる	C1-1	外国語を用いて論文を作成できる	一定の形式に則って英作文ができる	英語による350-400語程度の短論述ができる	英語による2000-語程度の報告書を作成できる	英語による学術論文が作成できる	英語による論文を発行できる		
	C1-2	外国語を用いて討論ができる	英語による10分程度のプレゼンテーション及び質疑応答ができる	英語による討論において他者の発言を理解し自ら発言できる	英語による討論に参加し議論の展開に貢献できる	英語による討論を主導することができる	英語による討論において意見を調整し合意に導くことができる		
	C1-3	外国語を用いて業務を行える	英語を用いた業務連絡が理解できる	英語を用いた業務連絡を発信できる	英語を用いて交渉ができる	英語を用いた交渉により個人的な成果を示すことができる	英語を用いた一連の交渉により組織的な成果を示すことができる		
	C1-4	国際的な集団の中で、目的を達成するために必要な判断・調整ができる	英語を用いてグループワークに貢献できる	英語を用いてグループによる企画を立案することができる	英語を用いてグループによる企画を遂行することができる	英語を用いてグループによる企画を指揮することができる	英語を用いてグループによる企画を指揮し顕著な成果を示すことができる		
マネジメント力 状況を科学的に捉え、より良い状況に向けて合意形成を導くことができる	C2-1	人類社会が直面する課題や、集団が抱える問題点を理解できる	人間の社会行動理解のための基礎的な概念を説明できる	人間の社会行動についての重層的な影響過程を説明できる	社会的秩序や偏見・差別への具体的な対応方法を提示できる	人間の社会行動に関する理念や概念に基づき企画を立案することができる	人間の社会行動に関する理念や概念に基づき企画を立案・実行して成果を示すことができる		
	C2-2	正確な知識と高い倫理観に基づき、課題について対策を提案することができる	特定の課題について、状況の分析や倫理的な判断のための情報を収集することができる	特定の課題について、正確な情報に基づき状況を説明したり、倫理的な感情を表明したりできる	特定の課題について、正確な情報と社会的意に基づき対応策を提案することができる	特定の状況について、正確な情報と倫理的観点に基づき独自の考察に基づき、企画を立案・実行できる	特定の状況について、正確な情報と深い倫理的考察に基づき企画を立案・実行して成果を示し、新たな善の構想を示すことができる		
	C2-3	個や集団のストレスをコントロールし、個や集団が的確な方向に進めるようにマネジメントできる	個人と集団の関係に関する理論や概念を説明できる	個人や集団の理論や概念の正確な理解に基づき、与えられたテーマに関する議論ができる	個人や集団の理論や概念の正確な理解に基づき、課題を発見し、解決策を提示することができる	個人や集団の理論や概念に基づき、企画を立案することができる	個人や集団の理論や概念に基づき、企画を立案・実行し、顕著な成果を示すことができる		
	C2-4	原爆からの復興を果たした広島大学の経験に基づき、放射線災害復興のための自らが果たすべき役割を明確に遂行できる	広島における原爆の経験と復興の経緯について説明できる	原爆とその後の復興において広島大学が果たした役割を説明できる	原爆とその後の復興において広島大学が果たした役割に基づき、本プログラムの使命を説明できる	原爆とその後の復興における広島大学の経験を企画に反映することができる	原爆とその後の復興における広島大学の経験を反映した企画を立案・実行し、顕著な成果を示すことができる		
学際力 専門分化した知識の全体を俯瞰し、必要に応じて活用することができる	C3-1	専門分野を超えた知識や技術を活用し、独創的な研究を発案・展開できる	専門分野外の正確な知識や技術について説明できる	専門分野外の正確な知識に基づき、特定のテーマについて議論できる	専門分野外の正確な知識に基づき、特定の課題に対する対応策を提示することができる	専門分野外の知識や技術を活用して、自ら企画を立案することができる	専門分野外の知識や技術を活用して、自ら立案した企画を実行し、顕著な成果を示せる		
	C3-2	放射線災害に伴う多様なリスクを総合的な視点から理解し、的確な対応策を提言できる	放射線災害に伴うリスクを複数の分野の視点から説明できる	放射線災害に伴うリスクを複数の分野の視点から説明し、対応策を示すことができる	放射線災害に伴うリスクを複数の分野の知識に基づき、総合的に把握し、対応策を示すことができる	放射線災害に伴う多様なリスクの総合的な理解に基づく企画を立案することができる	放射線災害に伴う多様なリスクの総合的な理解に基づく企画を立案・実行し、顕著な成果を示すことができる		
	C3-3	放射線生物学の基礎を理解でき、人体への影響を評価できる	放射線生物学の基礎となる生命現象について説明できる	放射線による生物作用及びその対策について説明できる	放射線の人体影響に関する理解に基づき、放射線サーベイ及び緊急対応に従事することができる	放射線による人体影響及びその対策に関する知識に基づく企画を立案できる	放射線による人体影響及びその対策に関する知識を反映した企画を立案・実行し、顕著な成果を示すことができる		
	C3-4	放射線物質と放射線の基礎を理解でき、各種放射線測定器を使用し、環境中の放射線物質の動態を評価することができる	環境中の天然及び人工放射線物質について理解し、挙動を説明できる	環境中の天然及び人工放射線物質について挙動及び管理基準を説明できる	環境中の天然及び人工放射線物質について正確な理解に基づき測定し、動態を評価することができる	環境中の天然及び人工放射線物質についての知識と、動態評価の技術に基づく企画を立案することができる	環境中の天然及び人工放射線物質についての知識と、動態評価の技術を反映した企画を立案・実行し、顕著な成果を示すことができる		
	C3-5	放射線災害時における個や集団のストレスを把握でき、解決方法を提示できる	放射線災害からの復興のための行政や民間の取組について説明できる	放射線災害からの復興のための取組を系統的に説明できる	放射線災害復興のための取組を系統的に理解した上で、行政・民間の取組について自ら実践的な策を考案することができる	放射線災害復興のための行政・民間による体系的な取組の中に自らの企画を位置付けることができる	放射線災害復興のための行政・民間による体系的な取組の中に自らの企画を位置付け、顕著な成果を示すことができる		

(2) 放射線災害医療コース

学修目標 Learning Goals	コード Code	基礎到達目標 Learning Objectives	成果水準1 effort 1	成果水準2 effort 2	成果水準3 effort 3	成果水準4 effort 4	成果水準5 effort 5	自己 評価	総合
原発作業員などの急性放射線障害の病態の把握と診断・治療ができる	M4-1	急性放射線障害に至る経緯について理解でき、急性放射線障害の病態の把握ができる	関連する教科 の GPA0.1-0.5 を目安とする	関連する教科 の GPA0.6-1.5 を目安とする	関連する教科 の GPA1.6-2.5 を目安とする	関連する教科 の GPA2.6-3.5 を目安とする	関連する教科 の GPA3.6-4.0 を目安とする		
	M4-2	急性放射線障害から自らを防御でき、放射性物質に汚染されたものの適切な処理方法を理解できる							
	M4-3	放射線測定機器(ガイガーカウンター、ホールボディカウンター等)を適切に使用できる							
一般住民などへの低線量被ばくの影響評価ができる	M5-1	事故により大気中に放出された放射性物質や、食品に含まれる放射性物質の動態について理解できる							
	M5-2	低線量放射線による健康影響を理解できる							
	M5-3	低線量被ばくによる健康影響の疫学調査を理解できる							
内部被ばく、外部被ばくの的確な線量評価ができる	M6-1	内部被ばくと外部被ばくの違いを理解できる							
	M6-2	健康調査、疫学調査の基礎を理解できる							
	M6-3	放射線測定機器(ガイガーカウンター、ホールボディカウンター等)の特徴について理解できる							
放射線高感受性である胎児、小児への適切な影響評価と診断、治療ができる	M7-1	放射線による胎児・小児への影響を理解できる							
	M7-2	胎児(母体)と小児の体内システムについて理解できる							
	M7-3	胎児(母体)、小児への放射線の防御方法を理解できる							
放射線による発がんや遺伝的影響の機序とそのリスクを評価できる	M8-1	発がんや遺伝子について理解できる							
	M8-2	放射線による発がんメカニズムや遺伝的影響について理解できる							
	M8-3	発がんリスクや遺伝的影響に関する疫学の基礎について理解できる							
放射能汚染ストレス下における心理的評価とメンタルケアができる	M9-1	放射能汚染ストレスについて理解できる							
	M9-2	放射能汚染ストレス下で起こりうる心理的影響を評価できる							
	M9-3	メンタルケアの基礎を理解できる							
平均点 (31 項目)									XX

(2) 放射能環境保全コース

学修目標 Learning Goals	コード Code	基礎到達目標 Learning Objectives	成果水準1 effort 1	成果水準2 effort 2	成果水準3 effort 3	成果水準4 effort 4	成果水準5 effort 5	自己 評価	総合
原発事故，核 テロ及び放射 線事故におけ る核分裂反応 生成物の性質 を科学的に解 析できる	E4-1	原発事故，核テロ，放射線事 故に至る経緯について理解 でき，安全管理のポイントが 把握できる	関連する教科 の GPA0.1-0.5 を目安とする	関連する教科 の GPA0.6-1.5 を目安とする	関連する教科 の GPA1.6-2.5 を目安とする	関連する教科 の GPA2.6-3.5 を目安とする	関連する教科 の GPA3.6-4.0 を目安とする		
	E4-2	原子炉の原理，構造，核燃料 サイクルを理解できる							
	E4-3	原子核の構造と安定性，放射 線の発生，核分裂反応につい て理解できる							
適切に環境汚 染の計測，解 析，評価がで きる	E5-1	放射性物質の環境への拡散 理論を理解できる							
	E5-2	放射線計測の核種分析機器 の測定原理を理解できる							
	E5-3	放射線計測の核種分析機器 の分析方法，計測方法を理解 して測定でき，結果を解析 し，外部被ばく，内部被ばく							
放射性物質の 大気中，土壌 中，海洋中で の環境動態及 び食品中の汚 染を解析でき る	E6-1	大気中，土壌中，海洋中での 放射性物質の移行・挙動が理 解できる							
	E6-2	大気・土壌・海洋から動物・ 植物への放射性物質の移行 を理解でき，動物・植物中の 放射性物質の挙動を理解で きる							
	E6-3	食品中の放射性物質汚染に ついて理解でき，食品からの 内部被ばくを評価できる							
適切に放射能 の除染及び放 射性廃棄物の 処理，保管が できる	E7-1	放射性廃棄物の適切な処理 について理解できる							
	E7-2	放射性廃棄物の適切な保管 について理解できる							
	E7-3	放射性物質の除染について 理解できる							
平均点（25 項目）									XX

(2) 放射能社会復興コース

学修目標 Learning Goals	コード Code	基礎到達目標 Learning Objectives	成果水準1 effort 1	成果水準2 effort 2	成果水準3 effort 3	成果水準4 effort 4	成果水準5 effort 5	自己 評価	総合
放射線災害がもたらす人体への直接的影響だけでなく精神的ストレスによる人やコミュニティへの悪影響を抑制できる	S4-1	原発事故、核テロ、放射線事故に至る経緯について理解でき、安全管理のポイントが把握できる	関連する教科 の GPA0.1-0.5 を目安とする	関連する教科 の GPA0.6-1.5 を目安とする	関連する教科 の GPA1.6-2.5 を目安とする	関連する教科 の GPA2.6-3.5 を目安とする	関連する教科 の GPA3.6-4.0 を目安とする		
	S4-2	原子炉の原理、構造、核燃料サイクルを理解できる							
	S4-3	原子核の構造と安定性、放射線の発生、核分裂反応について理解できる							
放射能汚染ストレス下における健全な子育て環境を支援できる	S5-1	放射性物質の環境への拡散理論を理解できる							
	S5-2	放射線計測の核種分析機器の測定原理を理解できる							
	S5-3	放射線計測の核種分析機器の分析方法、計測方法を理解して測定でき、結果を解析し、外部被ばく、内部被ばく							
放射能に関する社会的不安に対する適切なリスクコミュニケーションが実施できる	S6-1	大気中、土壌中、海洋中での放射性物質の移行・挙動が理解できる							
	S6-2	大気・土壌・海洋から動物・植物への放射性物質の移行を理解でき、動物・植物中の放射性物質の挙動を理解できる							
	S6-3	食品中の放射性物質汚染について理解でき、食品からの内部被ばくを評価できる							
被災住民のコミュニティ再構築を支援できる	S7-1	放射性廃棄物の適切な処理について理解できる							
	S7-2	放射性廃棄物の適切な保管について理解できる							
	S7-3	放射性物質の除染について理解できる							
協同して社会的問題解決するためのソーシャルキャピタルを拡充できる	S8-1	ソーシャルキャピタルを拡充するための手法について理解できる							
	S8-2	多様な観点からプロジェクト分析を行うことができる							
	S8-3	系統的なプロジェクトマネジメントの手法について理解できる							
放射能ストレス下において適切な社会的合意を形成することできる	S9-1	個人と集団との関係性について理解できる							
	S9-2	社会的排除の発生メカニズムと影響を理解し、その防止と抑制策を考えることができる							
	S9-3	リーダーに求められる資質と、それを発揮させるフオリョーや組織のあり方について理解できる							
平均点（31 項目）									XX

VIII 博士論文研究基礎力審査 合否判定通知書／依頼書

1 放射線災害医療コース（4 年制コース）

平成●●年●●月●●日

広島大学大学院医歯薬保健学研究科長 殿

広島大学大学院リーディングプログラム機構長

● ● ● ●

(公印省略)

平成●●年度博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）の合否判定結果について（通知）

標記のことについて、広島大学大学院リーディングプログラム機構では、広島大学大学院規則（以下「規則」という。）第 43 条第 3 項に規定する試験及び審査（以下「博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）」という。）を実施し、平成●●年●●月●●日開催の第●●回大学院リーディングプログラム機構運営会議において、下記のとおり判定されましたのでお知らせいたします。

記

- 1 学生番号 ●●●●
- 2 氏名 ●●●●
- 3 所属専攻名 博士課程 医歯薬学専攻
- 4 主任指導教員 ●●●●
- 5 博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）の結果
 - (1) 規則第 43 条第 3 項第 1 号に規定する試験：合格
 - (2) 規則第 43 条第 3 項第 2 号に規定する審査：合格
- 6 添付資料

平成●●年度広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）結果報告書

2 放射能環境保全コース及び放射能社会復興コース（5年制コース）

平成●●年●●月●●日

広島大学大学院●●研究科長 殿

広島大学大学院リーディングプログラム機構長

● ● ● ●

(公印省略)

平成●●年度博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）の合否判定について（依頼）

標記のことについて、広島大学大学院リーディングプログラム機構では、広島大学大学院規則（以下「規則」という。）第43条第3項に規定する試験及び審査（以下「博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）」という。）を実施し、平成●●年●●月●●日開催の第●●回大学院リーディングプログラム機構運営会議において、下記のとおり承認されました。

つきましては、貴研究科において合否判定を行っていただき、結果をお知らせいただくとともに、合格と判定された場合は所要の手続を行っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

記

1 学生番号 ●●●●

2 氏名 ●●●●

3 所属専攻名 博士課程前期 ●●専攻

4 主任指導教員 ●●●●

5 博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）の結果

(1) 規則第43条第3項第1号に規定する試験：合格の基準を満たしている。

(2) 規則第43条第3項第2号に規定する審査：合格の基準を満たしている。

6 添付資料

平成●●年度広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）結果報告書

IX 参考資料（関連規程）

1 フェニックスリーダー育成プログラム履修細則（関連条項のみ抜粋）

○広島大学大学院博士課程放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム履修細則

平成 24 年 9 月 24 日

フェニックスリーダー育成プログラム会議承認

改正 H25.9.24 H26.9.22 H27.2.9 H27.6.8 H28.8.22 H29.8.21

広島大学大学院博士課程放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム履修細則

（略）

（博士論文研究基礎力審査）

第 10 条 学生は、次条に定める基準を満たした場合は、次の各号に定める博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）（以下「博士論文研究基礎力審査」という。）を受けることができ、その審査に合格したときは、引き続きフェニックスリーダー育成プログラムの 3 年次（4 年制コースを履修する学生にとっては 2 年次後期）の課程を履修することができる。

- （1） コースワーク 複数分野の専門知識に関する筆記試験
- （2） リサーチワーク 博士論文研究基礎力審査委員会による研究計画書に対する英語での口頭試問
- （3） e ラーニングポートフォリオ 博士論文研究基礎力審査委員会による学修の記録（単位修得状況とその理解度及び目標達成度）に基づくプログラムが目指す博士候補生としての資質能力審査

（博士論文研究基礎力審査を受けるための基準）

第 11 条 4 年制コースを履修する学生の博士論文研究基礎力審査を受けるための基準は、次のとおりとする。

- （1） 所属研究科の 2 年次前期終了時における所定の単位を修得（見込みを含む。）していること。
- （2） 4 年制コースの 2 年次前期終了時に当該コースの単位を 16 単位以上修得（見込みを含む。）していること。

2 5 年制コースを履修する学生の博士論文研究基礎力審査を受けるための基準は、次のとおりとする。

- （1） 所属研究科の博士課程前期における所定の単位を修得（見込みを含む。）し、博士課程前期を修了見込みであること。
- （2） 5 年制コースの 2 年次終了時に当該コースの単位を 21 単位以上修得（見込みを含む。）していること。

（略）

2 博士論文研究基礎力審査実施要項

○広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査実施要項

平成 25 年 9 月 24 日

フェニックスリーダー育成プログラム会議承認

改正 H25.11.25 H26.2.10 H26.4.28 H28.9.26 H30.3.5

広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査実施要項

（趣旨）

第 1 この要項は、広島大学大学院博士課程放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラ

ム履修細則(平成 24 年 9 月 24 日フェニックスリーダー育成プログラム会議承認。以下「細則」という。)
に定める博士論文研究基礎力審査(Qualifying Examination)(以下「博士論文研究基礎力審査」という。)の実
施に関し必要な事項を定めるものとする。

(審査の方法)

第 2 フェニックスリーダー育成プログラムにおける博士論文研究基礎力審査として、次の表に掲げる試験、
審査及び評価等を実施する。

種類	審査方法		審査者
コースワーク※3 (細則第 10 条第 1 号関係) 複数分野の専門知識に関する 筆記試験	コースワーク※3 において学生が習得した知識及び能 力を問う筆記試験		○博士論文研究基礎力審査委員会※ 1(ただし、産学官連携先担当者※2 を除く。) ○授業担当教員
	学生プロジェクト立案スキルの審査		○博士論文研究基礎力審査委員会※1 ○ヒロシマ・フェニックストレーニン グセンター運営委員会(出題のみ)
リサーチワーク※4 (細則第 10 条第 2 号関係) 博士論文研究基礎力審査委員 会※1 による研究計画書に対 する英語での口頭試問	学生の特別課題研究(特別研究)等の報告書又は博士論文 研究計画の審査		○博士論文研究基礎力審査委員会※1
e ラーニングポートフォリオ ※7 (細則第 10 条第 3 号関係) 博士論文研究基礎力審査委員 会※1 による学修の記録(単位 修得状況とその理解度及び目 標達成度)に基づくプログラ ムが目指す博士候補生として の資質能力審査	e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた学修目標※5 に対する到達度自己評価※8 の確認		○博士論文研究基礎力審査委員会※1
	到達度のエ ビデンス※ 9 に基づく 成果水準※ 6 の確認	学生の単位修得状況の確認	○博士論文研究基礎力審査委員会※1
		e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた 国際シンポジウム終了後に学生が提出す る国際シンポジウム報告書に基づく成果 水準※6 の確認	○博士論文研究基礎力審査委員会※1
		e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた 短期フィールドワーク終了後に学生が提 出する報告書に基づく成果水準※6 の確 認	○博士論文研究基礎力審査委員会※1
		e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた 共通コースワーク終了後に学生が提出す る報告書に基づく成果水準※6 の確認	○博士論文研究基礎力審査委員会※1
		e ラーニングポートフォリオ※7 を用いた 短期インターンシップ終了後に学生が提 出する報告書に基づく成果水準※6 の確 認(平成 27 年度以前入学生に限る。)	○博士論文研究基礎力審査委員会※1

(審査の特例)

第 3 広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力
審査に係る短期インターンシップ履修時期の特例(平成 25 年 11 月 25 日フェニックスリーダー育成プログ
ラム会議承認)に基づき特例が認められた場合は、短期インターンシップ報告書に基づく成果水準の確認は
留保するものとする。

- 2 広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム共通コースワーク報告書の提出及び報告会の特例(平成 26 年 2 月 10 日フェニックスリーダー育成プログラム会議承認)に基づき特例が認められた場合は、共通コースワーク報告書に基づく成果水準の確認は留保するものとする。

(注)

- ※1 博士論文研究基礎力審査委員会 主任指導教員 1 人、副指導教員 3 人及び産学官連携先担当者(※2)で構成する委員会。プログラム責任者が必要と認めた本学専任の教員を含むことができる。
- ※2 産学官連携先担当者 インターンシップ等により任用した客員教授等
- ※3 コースワーク 学修目標に沿った複数科目の体系的な履修
- ※4 リサーチワーク 主任指導教員及び副指導教員の指導の下で学生が実施する個別の研究活動
- ※5 学修目標 プログラムのみならず将来のキャリアの中でも目指す目標であり、フェニックスリーダーとして身につけるべき知識や能力を示したものの。
- ※6 成果水準 到達度の基準となる学修成果を段階的に示したものの。
- ※7 e ラーニングポートフォリオ フェニックスリーダー育成プログラムの学修の記録
- ※8 到達度自己評価 e ラーニングポートフォリオにおいて学生が実施し、記録する学期ごとの学修目標に対する到達度の 5 段階評価
- ※9 到達度のエビデンス 学生による学修目標に対する到達度の根拠として学生が添付する報告書等の学修成果物

附 則

この要項は、平成 25 年 9 月 24 日から施行し、平成 24 年 10 月 1 日から適用する。

(略)

3 博士論文研究基礎力審査における不合格及び再審査の取扱い

○広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査における不合格及び再審査の取扱い

平成 26 年 2 月 10 日

フェニックスリーダー育成プログラム会議承認

改正 H27.12.3 H28.9.26 H30.3.5

広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査における不合格及び再審査の取扱い

(趣旨)

第 1 この取扱いは、広島大学大学院博士課程放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム履修細則(平成 24 年 9 月 24 日フェニックスリーダー育成プログラム会議承認)第 14 条の規定に基づき、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム(以下「フェニックスリーダー育成プログラム」という。))の博士論文研究基礎力審査(以下「QE 審査」という。))における不合格及び再審査の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

(不合格及び再審査の取扱い)

第 2 フェニックスリーダー育成プログラムの履修学生は、QE 審査に不合格となったときは、1 回に限り、再度 QE 審査(以下「再審査」という。))を受けることができるものとする。

2 再審査は、速やかに実施するものとする。ただし、特別の事情があるとフェニックスリーダー育成プロ

グラム会議が判断するときは、QE 審査終了後 1 年以内に実施することができる。

- 3 再審査の手続等は、フェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査実施要項(平成 25 年 9 月 24 日フェニックスリーダー育成プログラム会議承認)及びフェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査実施要領(平成 30 年 3 月 5 日フェニックスリーダー育成プログラム会議承認)に準じて行うものとする。

(再審査における不合格の取扱い)

第 3 放射線災害医療コースの履修学生は、再審査に不合格となったときは、フェニックスリーダー育成プログラムから離脱するものとする。

- 2 前項の場合において、当該学生は、その意思に従って所属研究科の博士課程の履修継続又は退学等を選択するものとする。

- 3 所属研究科における博士課程の修了に必要な単位修得及び研究指導等については、所属研究科の定めるところによる。

第 4 放射能環境保全コース及び放射能社会復興コースの履修学生は、再審査に不合格となったときは、フェニックスリーダー育成プログラムから離脱するものとする。

- 2 前項の場合において、当該学生は、その意思に従って所属研究科の博士課程前期の履修継続又は退学等を選択するものとする。

- 3 所属研究科における博士課程前期の修了に必要な単位修得及び研究指導等については、所属研究科の定めるところによる。

(経済的支援)

第 5 QE 審査を不合格となり再審査に合格するまでの期間、フェニックスリーダー育成プログラムの履修学生に対する経済的支援は、補助金等の財政状況を勘案の上、その範囲内で行うものとする。ただし、標準履修年限を超えて支援しない。

(その他)

第 6 この取扱いに定めるもののほか、博士論文研究基礎力審査における不合格及び再審査の取扱いに関し必要な事項は、フェニックスリーダー育成プログラム会議が定める。

附 則

この取扱いは、平成 26 年 2 月 10 日から施行する。

(略)

4 博士論文研究基礎力審査委員会における学外委員の取扱い

○広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
博士論文研究基礎力審査委員会における学外委員の取扱い

平成 26 年 4 月 28 日

フェニックスリーダー育成プログラム会議承認

改正 H30.9.10

広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力
審査委員会における学外委員の取扱い

(趣旨)

第 1 この取扱いは、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム博士

論文研究基礎力審査実施要項(平成 25 年 9 月 24 日フェニックスリーダー育成プログラム会議承認)に定める博士論文研究基礎力審査委員会委員のうち、プログラム責任者が必要と認めた学外者(以下「学外委員」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(学外委員)

第 2 学外委員は、次の各号のいずれかに掲げる者とする。

- (1) フェニックスリーダー育成プログラム入学試験委員に委嘱した者
- (2) フェニックスリーダー育成プログラム短期インターンシップ協力機関等の指導責任者
- (3) フェニックスリーダー育成プログラム招へい教授
- (4) フェニックスリーダー育成プログラム客員教授
- (5) フェニックスリーダー育成プログラムに委嘱した非常勤講師
- (6) フェニックスリーダー育成プログラムリトリートに委嘱した者
- (7) フェニックスリーダー育成プログラムセミナーに委嘱した者
- (8) その他プログラム責任者が必要と認める者

(雑則)

第 3 この取扱いに定めるもののほか、博士論文研究基礎力審査委員会における学外委員に関し必要な事項は、フェニックスリーダー育成プログラム会議において定める。

附 則

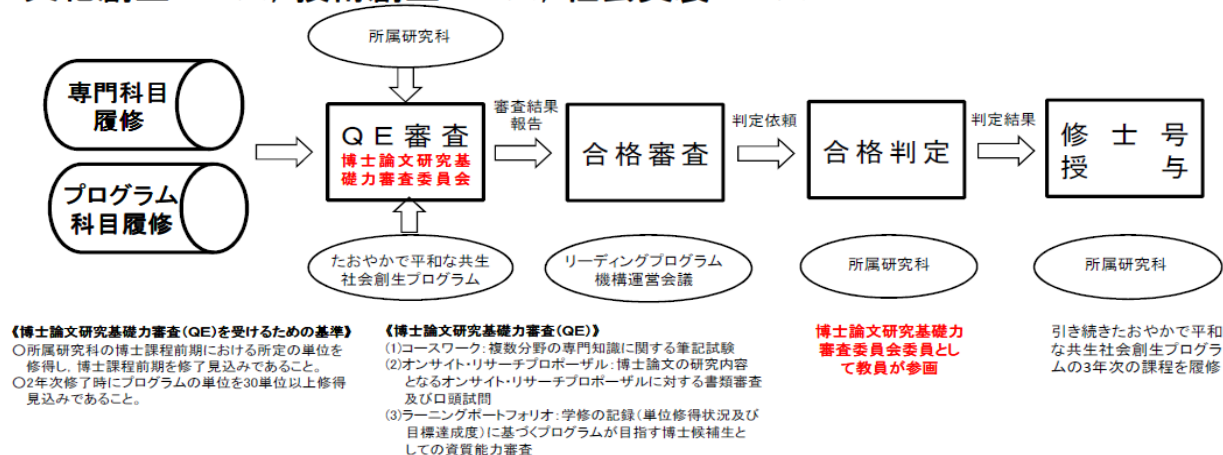
この取扱いは、平成 26 年 4 月 28 日から施行する。

附 則

この取扱いは、平成 30 年 9 月 10 日から施行する。

2018 年度 後期 Qualifying Examination1 (QE1) (博士論文研究基礎力審査) 実施要領

文化創生コース, 技術創生コース, 社会実装コース



たおやかプログラムの QE1 (Qualifying Examination1) は、2 年次 (博士課程前期 2 年次) に課せられる審査で、「博士論文研究基礎力審査」と呼ぶ。2 年間に行った講義・オンサイト教育等で学んだ成果を、「コースワーク筆記試験」、「オンサイト・リサーチプロポーザル」及び「ラーニングポートフォリオ (オンサイト研修報告書及び課題研究報告書)」により評価する。

(1) 受験資格

以下の「QE1 受験要件」を満たすことにより、2 年次 (博士課程前期 2 年次) に Qualifying Examination1 (QE1)を受験することができる。

- ・所属研究科の博士課程前期における修了要件単位を修得見込みであること
- ・2 年次修了時にたおやかプログラムの修了要件単位を 30 単位以上修得見込みであること

(2) 博士論文研究基礎力審査委員会

- 【1】主審査委員 1 人 (委員長は主審査委員をもって充てる)
- 【2】副審査委員 2 人以上 (他コースのプログラム担当者を 1 人以上含む)
- 【3】プログラム責任者が認めた教員 (学生の所属研究科に推薦を求めプログラム会議で承認)

(3) 審査事項

「コースワーク筆記試験」、「オンサイト・リサーチプロポーザル」及び「ラーニングポートフォリオ」の審査により、平和を希求する精神のもとに多角的思考力・自主性・実行力・創造力といったリーダーの素養を有し、リバースイノベーション候補者に相応しいレベルにあるか評価する。

- 【1】コースワーク筆記試験:複数分野の専門知識 (多文化共生実践科目及びリバースイノベーション専門科目) に関する筆記試験
- 【2】オンサイト・リサーチプロポーザル:書類審査及び口頭試問
- 【3】ラーニングポートフォリオ:学修の記録 (単位修得状況及び目標達成度 (オンサイト研修報告書及び課題研究報告書)) に基づく資質能力審査

(4) 審査方法

- 【1】コースワーク筆記試験の審査

① 実施方法等

種類		実施方法等	試験時間
コースワーク (複数分野の専門知識を問う筆記試験)	多文化共生実践科目	学位審査委員会が定める自由記述論文の課題を出題。	90 分
	リバースイノベーション専門科目	各授業担当者が作成し、主任指導教員が指定する 1 科目から出題。 (リバースイノベーション専門科目に適切な科目がない場合は各研究科の専門科目より選択する)	90 分

② 審査基準

多文化共生実践科目（配点 50 点）及びリバーサイノベーション専門科目（配点 50 点）で 100 点とし、秀、優、良、可及び不可の 5 段階評価を行い、可以上を合格とする。

合計点	評価
90 点～100 点	秀
80 点～89 点	優
70 点～79 点	良
60 点～69 点	可
60 点未満	不可

【2】オンサイト・リサーチプロポーザルの審査

①実施方法等

種類	実施方法等
オンサイト・リサーチプロポーザルに対する書類審査及び口頭試問（発表 20 分，質疑応答 20 分）	博士論文研究基礎力審査委員会

※オンサイト・リサーチプロポーザル（博士論文研究計画書及びオンサイト・チームプロジェクトプロポーザル）

②審査基準

研究の進捗度，理解度，独創性などの点で研究を主体的に遂行する知識と能力を有するかを，書類審査及び口頭試問によって評価する。5 段階評価による平均点の小数点第 2 位を四捨五入した数値により，可以上を合格とする。

平均点	評価
4.6 点～5.0 点	秀
3.6 点～4.5 点	優
2.6 点～3.5 点	良
1.6 点～2.5 点	可
1.6 点未満	不可

③オンサイト・リサーチプロポーザルの提出

（1）博士論文研究計画書（1,000 ワード程度（図表除く））

（2）オンサイトチームプロジェクト・プロポーザル（1,000 ワード程度（図表除く））

所定の作成要領（英語，A4 判，（1）と（2）の合計 2,000 ワード程度（図表除く），11 ポイント）により，所定の期日までに，ラーニングポートフォリオの所定の場所に登録する。

【3】ラーニングポートフォリオの審査

①実施方法等

種類	実施方法等
学修記録に基づくプログラムが 目指す博士候補生としての資質 能力審査	学修目標に対する到達度自己評価の確認
	到達度のエビデンスに基づく成果水準の確認
	単位修得状況
	オンサイト研修報告書 課題研究報告書

※課題研究報告書：指導教員の認める課題研究の報告書（英語，A4 判，10,000 ワード程度（図表を含む），11 ポイント）。

②審査基準

到達度自己評価及び成果水準の確認

・所属研究科及びプログラム授業科目の単位修得状況及び成績評価状況に基づき行う。

- ・各報告書に基づく成果水準の確認は、学生の到達度自己評価に基づき行う。

③進級及び修士号の授与

- ・ **QE1** に合格し、所属研究科専攻の定める修了要件単位を満たした者には、修士の学位が授与され、プログラム3年次（博士課程後期1年次）に進学することができる。
- ・ 4月入学者は2年次2月に、10月入学者は2年次8月に **QE1** を受験する必要がある。
- ・ **QE1** に不合格となった場合または受験しなかった場合、半年後に1回のみ再受験を認める。
- ・ 再受験に不合格となった場合には、所属研究科専攻の定める修士論文審査に合格し、修了要件単位を満たしていれば修士の学位が授与されるが、プログラム学生として3年次（博士課程後期1年次）に進学できない。

年度 広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム
博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination1) 申請書

年 月 日

たおやかで平和な共生社会創生プログラム責任者 殿

コース名 :
学生番号 :
氏 名 : 印

たおやかで平和な共生社会創生プログラム博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination1) を申請します。
なお、博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination1) を受けるための基準を次のように
[満たしています ・ 満たす見込みです]。

記

所属研究科・専攻					
所定の単位数	単位	修得単位数	単位	修得見込み単位数	単位

プログラム・コース名	たおやかで平和な共生社会創生プログラム〇〇コース				
所定の単位数	単位	修得単位数	単位	修得見込み単位数	単位

主任指導教員 印

【申請書の提出手続き】

- ① それぞれの単位数を記入し、主任指導教員の承認印を受けること。
- ② たおやかで平和な共生社会創生プログラム事務室に申請書を提出すること。

年度 広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム 博士論文研究基礎力審査 (Qualifying ExaminationI) 結果報告書			
所属研究科		専攻名	
コース名		氏名	
審査概要	1 コースワーク 複数分野の専門知識に関する筆記試験の結果、学生が習得した知識及び能力の評価は、(秀, 優, 良, 可, 不可)であった。 2 オンサイト・リサーチプロポーザル 博士論文研究基礎力審査委員会による研究計画書に対する英語での口頭試問の評価は、(秀, 優, 良, 可, 不可)であった。 3 ラーニングポートフォリオ 博士論文研究基礎力審査委員会による学修の記録(単位修得状況とその理解度及び目標達成度)に基づくプログラムが目指す博士候補者としての資質能力への到達度は、(秀, 優, 良, 可, 不可)であった。		
	所見 以上、広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラムが実施した博士論文研究基礎力審査 (Qualifying ExaminationI) の合格の基準を「満たしている・満たしていない」ことを報告します。		
平成 年 月 日 審査委員会委員長 審査委員会委員 印 (〇〇〇〇研究科 〇〇) (〇〇〇〇研究科 〇〇) (〇〇〇〇研究科 〇〇)			

広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム博士論文研究基礎力審査実施要領
(趣旨)

第2 たおやかで平和な共生社会創生プログラムにおける博士論文研究基礎力審査として、次の表に掲げる試験、審査及び評価を実施する。

4

(注)

- ※1 コースワーク：学修目標に沿った複数科目の体系的な履修。
- ※2 博士論文研究基礎力審査委員会：主審査委員 1 人，副審査委員 2 人以上の計 3 人以上及びその他プログラム責任者が認めた教員で構成する委員会。
- ※3 オンサイト・リサーチプロポーザル（博士論文研究計画書及びオンサイト・チームプロジェクトプロポーザル）
- ※4 学外外部審査委員 国内外の産学官連携先プログラム担当者（プロフェッショナルメンター）等。
- ※5 ラーニングポートフォリオ：プログラムにおける学修の記録。
- ※6 学修目標：プログラムのみならず将来のキャリアの中でも目指す目標であり，オンサイト・リバースイノベーターとして身につけるべき知識や能力を示したもの。
- ※7 到達度自己評価：ラーニングポートフォリオにおいて学生が実施し記録する学期ごとの学修目標に対する到達度評価。
- ※8 到達度のエビデンス：学生による学修目標に対する到達度の根拠として学生が添付する報告書等の学習成果物。
- ※9 成果水準：到達度の基準となる学修成果を段階的に示したもの。
- ※10 オンサイト研修：多文化共生課題について，国内外の条件不利地域に短期滞在し，具体的事例を学ぶことで，地域社会固有の文化特性と技術的課題克服の基本的考え方と対処姿勢を習得する。異分野の学生とチームとして協力しながら，異なる 2 つの中四国地域と南アジア地域の多文化共生課題を経験し，研修前後のディスカッションにおいて，地域の違いによる条件不利地域の共通性・差異の議論を行い，そのシナジー効果を含めてまとめられたケースは，新たな教材として蓄積する。
- ※11 課題研究報告書：所属研究科における課題研究の報告書。4 月入学生は 2 年次の 1 月中旬に，10 月入学生は 2 年次の 7 月中旬に提出する。

附 則

この要領は，平成 26 年 6 月 12 日から施行し，平成 26 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要領は，平成 27 年 2 月 12 日から施行し，この要領による改正後の広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム博士論文研究基礎力審査実施要領の規定は，平成 26 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要領は，平成 28 年 1 月 8 日から施行し，この要領による改正後の広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム博士論文研究基礎力審査実施要領の規定は，平成 26 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要領は，平成 28 年 5 月 12 日から施行し，この要領による改正後の広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム博士論文研究基礎力審査実施要領の規定は，平成 26 年 10 月 1 日から適用する。

附 則

この要領は，平成 29 年 10 月 19 日から施行し，この要領による改正後の広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム博士論文研究基礎力審査実施要領の規定は，平成 29 年 10 月 1 日から適用する。